

## キャリアデザイン学研究科

## I 2020年度大学評価委員会の評価結果への対応

**【2020年度大学評価結果総評】(参考)**

キャリアデザイン学研究科は、開設以来、社会的ニーズの多様化や高度化に応え、「キャリアデザイン学」における高度な専門教育・研究活動を実現し、その活動は積極的に発信されており、高く評価できる。研究科における2020年度自己点検・評価における各項目については、問題点や課題を把握し、エビデンスに基づいた適切かつ具体的な対応策がとられている。長期履修制度に関しても同様に、制度利用者の学習状況の把握や課題発見に努めており、導入3年目を迎えた制度の今後の展開に期待したい。大学院教育の質の確保という前提を保ちつつ、定員充足率を適正に管理するため、継続的な検討が求められる。

2020年度目標は、概ね具体的かつ適切に設定されているが、年度末の執行部や質保証委員会で提言された改善策については、次年度の目標に明確に示されることが望まれる。

今後の貴研究科のさらなる発展に期待したい。

**【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】**

2020年度も前年度から継続して教員間の意見交換に加え、大学院生の各学年から代表者を選出して執行部との連絡窓口とし、教育研究補助金の改正等の制度変更や、長期履修者の学習状況に関して情報交換を行い、必要な情報を研究科教授会にフィードバックし、教員間の主観的議論のみに依存しない、エビデンスに依拠した課題発見・問題解決を行った。対面の授業が行えず大学院生の状況や要望の把握が例年より困難であったため、執行部によりオンラインでの懇親会を主催し、学習に関する情報提供を行うとともに、大学院生の学習・研究の状況に関して情報収集を行い、教授会にフィードバックした。

法政大学キャリアデザイン学会は2020年度も計6回の研究会をオンラインにて開催し、内外の研究者や実務家との研究交流を継続している。また、大学院担当教員全員に学術研究データベースの更新を義務づけ、研究業績の公開をしている。

2021年度入試の定員充足率は80%であった。当該年度は新型コロナ対応のため筆記試験を行わず書類選考と面接試験のみでの選抜としたため、例年よりも厳しい基準での評価を行った結果、定員充足率は80%にとどまった。厳しい基準とはいえボーダーラインとなる点数を大幅に引き上げたのではなく、当落線上の受験生を合格にしなかったという対応である。本研究科で研究を行うに足る能力を持つ応募者を確保するために、進学相談会と並行して研究計画書の作成に関する説明会を例年通りに行った。進学相談会は従来の1対1での相談形式からグループ相談形式に変更したが、結果として質疑応答が受験準備や入学後の学習に関する内容に集中し、受験生個人個人の私的な内容に流れがちな個別相談形式よりも相談会としての情報提供の機能は改善された。

本研究科の長期履修制度は2018年に導入したが、長期履修者の大幅な増加は見られておらず、大学院生の意向を見る限りでは、むしろ2年間での修了を目指す傾向が強まっているとみられる。そのため在学期間の長期化による学習意欲の低下という問題は現在のところ顕在化していない。2020年度はオンライン上での院生用交流プラットフォームを設置し一定の効果はあったが、今後のオンライン授業の長期化による孤立感やストレスによる学習意欲の減退を防ぐため、教員側からの情報提供や大学院生同士の相互支援をさらに活性化する対策を今後検討していく。

**【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】**

キャリアデザイン学研究科における大学院生の学習・研究状況に関する情報収集や、問題解決のための教員間の緊密な連携体制の構築、法政大学キャリアデザイン学会の定期的な開催を通じた内外の研究者との研究交流の実施、等々、キャリアデザイン学研究科の長所を生かした取り組みの事例が報告されており、高く評価できる。課題として、留学生の定員充足が挙げられるが、新入生の質を勘案すると現状では目標達成に至っていない。研究教育の成果を対外的に公開する場を設けることで志願者への認知度を高め、その人数拡大と質向上を目指して。本研究科の性格上学会での研究発表等にそぐわない分野の教員もあるが、研究成果の一層の公開が求められる。

## II 自己点検・評価

## 1 教育課程・教育内容

**【2021年5月時点の点検・評価】**

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。</p> <p>本研究科は①キャリア教育・発達プログラム、②ビジネスキャリアプログラムの2つのプログラムより編成され、各プログラムに対応するプログラム科目を設置している。また、コースワーク基礎科目、共通科目を設置し、そのうえでリサーチワークに対する個別指導（修士論文指導、演習）を行っている。教育課程を体系的に編成し、関心のある研究テーマを掘り下げることが可能となるように綿密に組み立てられている。</p> <p><b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・キャリアデザイン学研究科カリキュラム</p>	
②博士後期課程において授業科目を単位化し、修了要件としていますか。	はい いいえ
<p><b>【根拠資料】</b> ※「はい」を選択した場合に単位化及び修了要件として設定されていることが確認できる資料を記入。 ・博士後期課程を設置していないため該当なし</p>	
③博士後期課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S A B
<p>※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。</p> <p>博士後期課程を設置していないため該当なし</p> <p><b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 博士後期課程を設置していないため該当なし</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・博士後期課程を設置していないため該当なし</p>	
④専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p><b>【修士】</b> 入学者・修了生アンケート等を活用して教育の状況を把握しており課題が生じた場合は研究科教授会の場で共有・検討し、教育内容の改善につなげるというプロセスを毎年実行している。また、社会の潮流や研究の動向も踏まえ、授業内で用いるテキスト、輪読論文の変更、講義スライドの変更など、各教員が教育内容を刷新している。また、これらを実効性のあるものとして実現するために、各教員が最先端の研究を行い、教育研究能力の研鑽に努めるとともに、その成果を公表している。</p> <p><b>【博士】</b> 博士後期課程を設置していないため該当なし</p> <p><b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・大学院シラバス ・学習支援システム授業情報 ・法政大学 学術研究データベース</p>	
⑤大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※大学院教育のグローバル化推進のために行っている取り組みの概要を記入。</p> <p><b>【修士】</b></p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

外国籍の応募者は例年若干名であるが、現在のところ合格者は出ていない。従来から引き続き、性別・年齢・国籍を問わず、研究遂行能力に基づいて入学者を選抜する方針をとっており、入学試験において外国人留学生を優遇する策を導入する予定はないが、全学的に活用できるサポート制度の活用やメンターの積極的な募集など、外国人留学生が研究しやすい環境を整備していく。

教育内容に関しては、教員による国際比較研究や海外と対象とした研究が進められており、それらの研究成果に依拠した、グローバルな観点およびグローバル社会に関する知見に基づく教育も行われている。2020年度は修了生のうち1名が修士論文の成果に基づき国際学会で発表した。

**【博士】**  
博士後期課程を設置していないため該当なし

**【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】** ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。  
特になし

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。  
・キャリアデザイン学研究科 研究成果集  
・法政大学 学術研究データベース

1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
----------------------	---

※履修指導の体制及び方法を記入。  
**【修士】**  
入学直後のオリエンテーションの際、大学院要項、講義要項に基づいて、大学院での2年間の学習を展望した履修指導を行っている。また、修士論文構想発表会など本研究科独自のイベントの時期と趣旨を踏まえた研究のスケジューリングに関する指導もオリエンテーションにて行っている。  
個々の授業に関しては、例年は入学時のガイダンスにて個々の教員により概要説明を行っているが、2021年度はオンラインでのオリエンテーションとなったため、授業概要は Web シラパスおよび学習支援システムに詳細な説明を掲載することで対応している。

**【博士】**  
博士後期課程を設置していないため該当なし

**【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】** ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。  
学習支援システム上で授業概要をより具体的に説明

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。  
・キャリアデザイン学研究科シラパス  
・学習支援システム授業情報  
・新入生オリエンテーション資料

②研究科（専攻）として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることで可能な状態にしていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
---	---

※ここでいう「研究指導計画」とは、事務手続きのスケジュールやシラパス等の個別教員の指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導体制及び研究指導スケジュールをまとめたものを指します（学位取得までのロードマップの明示等）。また、「あらかじめ学生が知ることで可能な状態」とは、HP や要項への掲載、ガイダンスでの配布等が考えられます。

**【修士】**  
新入生オリエンテーションにおいて研究指導計画を書面にて配付している。併せて、修士論文提出に至る流れを口頭でも説明している。さらに、2019年度より研究指導計画を大学院ウェブサイトにて公表している。

**【博士】**  
博士後期課程を設置していないため該当なし

**【根拠資料】** ※研究指導計画が掲載された文書・冊子等の名称を記入。  
・新入生オリエンテーション資料

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・大学院ウェブサイト（研究指導計画）	
③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。	
<p><b>【修士】</b>                  新入生オリエンテーションにおいて、研究指導計画を新入生に書面にて配付し、口頭にて学位取得に至る過程を詳細に説明している。そして修士1年次の11月の指導教員の申請時期に合わせて修士論文のための研究の進め方に関するガイダンスを行っている。また、年3回（修士1年の修論構想発表会：1回、修士2年の研究構想発表会・修論中間発表会：2回）の修論構想発表会・修論中間発表会を全教員、全学生参加のもとで開催している。この発表会を、キャリアデザイン学研究科における院生の研究に対する集団指導の場としている。その後、研究計画に基づき、担当教員が個別に指導を実施し、修士論文作成指導を丁寧に実施している。これらの各種行事は毎年行っているものであり、当初のスケジュールに沿って実施している。2020年度の4月の構想発表会はオンライン対応が間に合わずメールでの指導にとどまったが、2021年度はZOOMによるオンライン会議形式で行った。</p>	
<p><b>【博士】</b>                  博士後期課程を設置していないため該当なし</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生オリエンテーション資料</li> <li>・修士論文構想発表会プログラム、中間発表会プログラム</li> <li>・1年生対象11月ガイダンス資料（資料名：第1回修士論文構想発表会の位置づけ。10月配付）</li> <li>・研究指導計画（2019年度に大学院ウェブサイトにて公表）</li> </ul>	
④通常の教育課程や教育方法に加え、COVID-19への対応・対策として、教育内容、教育方法、成績評価等の一連の教育活動において工夫を講じていますか。行っている場合はその内容と教育活動の効果について教えてください。	
※取り組みの概要を記入。	
<p>COVID-19への対応としては、本研究科は実験科目を設置しておらず、討論および講義形式の授業が主体であるため、一部の実習を含む科目を除き、オンラインでの授業実施を原則として進めている。オンライン授業の実施に当たっては、従来の教育水準を維持して行うことを目的とし、従来は教室授業で行っていた内容の授業と成績評価をオンライン上で再現する形で進めている。そのため、オンライン授業の実施に伴う設備やツールの導入を除き、特に従来の授業からの変更点はないが、オンライン授業の実施に関するノウハウや改善点については大学院教員にとどまらず学部教授会や学部のイントラネット上にて情報交換をしている。修士論文の口述試験に関しては、オンライン上での適切な成績評価を行うために実施マニュアルを作成した。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習支援システム授業情報</li> <li>・2020年度第9回教授会配付資料「口述試験の進め方」</li> </ul>	
1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
※成績評価と単位認定の確認体制及び方法を記入。	
<p><b>【修士】</b>                  成績評価は各教員が責任をもち厳正に単位認定を行っている。論文審査については主査（1名）・副査（2名）が審査を担当し、口述試験後は審査結果を主査、副査で照合し、相互に率直な意見交換を行って厳正な最終評価を行い、可否を決定している。また、口述試験の際には、読み合わせにて教員間で学位基準の再確認を行い、適正な評価の実施に努めている。</p>	
<p><b>【博士】</b>                  博士後期課程を設置していないため該当なし</p>	
<p><b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

特になし	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・キャリアデザイン学研究科 学位基準	
②学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
※学位論文審査基準の名称及び明示方法を記入。 <b>【修士】</b> 新入生オリエンテーションにて、配付資料に掲載する形で学位基準を文書にて配付し、口頭にて説明している。また、大学院ウェブサイトにて学位基準を公表している。	
<b>【博士】</b> 博士後期課程を設置していないため該当なし	
<b>【根拠資料】</b> ※学位論文審査基準にあたる文書の名称を記入。また、冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。 ・新入生オリエンテーション資料 ・キャリアデザイン学研究科 学位基準	
③学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を把握していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。 修士論文提出者に対する学位授与率はほぼ 100%である。2018 年度に長期履修制度を導入したことによって修了年限の管理が複雑化したことにより、大学院事務と連携して名簿管理等を行っている。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・大学院生名簿	
④学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
※取り組みの概要を記入。 <b>【修士】</b> 入学時の新入生ガイダンスにおいて学位基準を周知徹底させ、学習に取り組みさせている。年 3 回の修士論文構想発表会・中間発表会の場において、厳しいフィードバックを行い研究科一丸となって、高い研究水準を維持する取り組みを実施している。 また、修士論文審査は主査（1 名）、副査（2 名）に加えて他の教員も参画し、審査結果は教授会全体で承認するという手続きで行っている。以上の形で、論文審査における適正性の確保と、学位水準の維持を実現する体制を構築している。	
<b>【博士】</b> 博士後期課程を設置していないため該当なし	
<b>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・新入生オリエンテーション資料	
⑤学位授与に係る責任体制及び手続を明らかにし、適切な学位の授与が行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
※責任体制及び手続等の概要を記入。ただし、博士については、学位規則のとおりに行われている場合には概要の記入は不要とし、「学位規則のとおり」と記入。 <b>【修士】</b> 原則として院生 1 名に対し 1 名の指導教員を配置し、指導教員の責任の下で論文の完成に至るまでの指導を行っており、対応すべき問題の発生時には教授会の場で共有して対応をしている。また、学位授与基準に基づいた厳正な論文審査を行うことにより、学位水準を適正に維持する努力を常に行っている。修士論文審査は主査（1 名）、副査（2 名）に加えて他の教員も参画し、審査結果を教授会全体で承認するという手続きで行っている。このように、教授会全体として責任を負う体制のもとで論文指導および学位授与を進めており、この手続きは入学時のオリエンテーションおよび指導教員申請時のオリエンテーションにて、執行部から院生に対して説明している。	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>さらに、研究倫理に沿った実証研究を促進するため、研究科内に研究倫理委員会を設置しており、2019年度に倫理規程を制定し、必要に応じて大学院生の研究の倫理審査を行っている。</p>	
<p><b>【博士】</b> 博士後期課程を設置していないため該当なし</p>	
<p><b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・新入生オリエンテーション資料 ・キャリアデザイン学研究科 研究倫理委員会規程</p>	
⑥学生の就職・進学状況を研究科（専攻）単位で把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。 キャリアデザイン研究科の学生は、現職を有する社会人のみであるため、入学時に勤務先、修了時には大学院の修了生アンケートにて現職の状況を把握している。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・入試出願書類 ・修了生アンケート（就労状況記入欄）</p>	
<p>1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。</p>	
①分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。 <b>【修士】</b> キャリアデザイン学研究科では、知識の吸収にとどまらず、講義や演習、修論構想発表会・修論中間発表会などの機会を通じて、学術論文のサーベイ能力、レポート能力、プレゼンテーション能力、論理的思考能力、問題解決能力など、より専門的なニーズに応えうる能力の開発に力点を置いている。そうした能力の応用的定着とその成果を把握するべく、講義や演習、修論構想発表会・修論中間発表会などを通じて、知識の吸収にとどまらず、多様な研究発表の機会を与えることで、研究の進捗、能力の向上を適宜、測定している。また、必要に応じて研究科教授会にて教育上の課題について議論している。</p>	
<p><b>【博士】</b> 博士後期課程を設置していないため該当なし</p>	
<p><b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・院生・修了生の学会発表、論文一覧</p>	
②具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。 <b>【修士】</b> 各授業内では個別の研究発表、討論、事例研究発表、課題提出などを実施し、学生に多様な研究発表の機会を与え、授業の理解度、その成果等を随時把握している。年3回の修論構想発表会・修論中間発表会においては、研究の進捗度や研究の深化レベル、研究の質を定期的に把握し指導を行っている。そのほか、修了生の学会発表、学会誌への論文投稿、出版物、実務における特記すべきプロジェクト実績なども、大学院での学習、研究成果を測定するための1つの指標としている。</p>	
<p><b>【博士】</b> 博士後期課程を設置していないため該当なし</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p><b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・キャリアデザイン学研究科ウェブサイト（修了生研究成果一覧）</p>	
<p>1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。</p>	
<p>①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。</p>	<p>S <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">A</span> B</p>
<p>※検証体制及び方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <p><b>【修士】</b></p> <p>研究科内に設置した質保証委員会や定例教授会において、随時、学習成果の検証とそのフィードバックについて意見交換や問題提起を行い、教育の改善・向上に向け、研究科の質保証を意識した取り組みを実施している。個々の授業や演習をはじめ、修論構想発表会・修論中間発表会などの機会において、院生の理解度、研究進捗度をはかり、絶えず教育内容、教育方法の刷新に努めている。</p>	
<p><b>【博士】</b></p> <p>博士後期課程を設置していないため該当なし</p>	
<p><b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
<p>②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。</p>	<p>S <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">A</span> B</p>
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>学生による授業改善アンケート結果を執行部にて検証し、課題を発見した場合は内容を教授会において全教員で共有し、各教員に結果をフィードバックしている。教育成果、教育内容・方法などの改善内容を教授会にて議論し、組織的に学生からの授業改善アンケート結果を有効に活用し、絶えず教育、指導の質的向上に努めている。</p>	
<p><b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
<p>個々の教員による講義、演習に加え、修論構想発表会（2回）・修論中間発表会といった集団指導の機会が確保されていることで、学習成果の把握が促進され、それをもとに教育の改善・向上が行われていくというプロセスが長所・特色と言える。</p>	

(3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既の実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>従来は学術研究としての質を重視し、修士論文の指導・評価においては学術的貢献を要件としてきたが、社会人を主体とした大学院としての役割をふまえ、実践的応用性を重視した論文も評価の対象とすることを検討している。本事項は短期間で結論を出すものではなく、大学院生、志願者のニーズをふまえて中長期的に検討していく課題と位置づけている。</p>	
--	--

【この基準の大学評価】

<p>キャリアデザイン学研究科では、いずれの項目においても、満足すべき水準の取り組みが行なわれている。とくに、コースワーク基礎科目とリサーチワークに対する個別指導を有機的に組み合わせた教育が展開されており、教育課程の体系的な編成を実現している点で高く評価できる。また、入学者・修了生アンケート等を活用して教育の状況を把握すると同時に、課題が生じた場合は研究科教授会場で検討するなど、教育内容の改善につなげる試みが継続的に行なわれている点や、年3回実施されている修士論文構想発表会・中間発表会が集団指導の場として有効に機能している点も評価に値する。今後は、「2020年度大学評価報告書」の「教育課程・学習成果の評価」に記されている「留学生の受け入れは達成できておらず、質の高い外国籍の学生を獲得するための方策を講じることに期待したい」との指摘に対し、キャリアデザイン学研究科としてどのような方針で臨むのか、組織的な検討が望まれる。また、「問題点・課題」には、「社会人を主体とした大学院としての役割を踏まえ、実践的応用性を重視した論文も評価の対象とする」ことが検討課題として挙げられており、その着実な実行を視野に入れた検討作業に期待したい。</p>
--

2 教員・教員組織

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

<p>2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。</p>	
<p>①研究科（専攻）独自のFD活動は適切に行われていますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p>【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。</p>	
<p>法政大学キャリアデザイン学会を独自に開催しており、広く学外にも公開しキャリア関連の研究者、実務家など先端的研究業績を有する研究者等を講演者に招聘し、学会活動を積極的に推進している。教員、院生、修了生、学内外の人々などと相互の自己研鑽を積極的に促進している。</p>	
<p>【2020年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。</p>	
<p>・6回の研究会を開催。詳細は法政大学キャリアデザイン学会ウェブサイト参照</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p>	
<p>・法政大学キャリアデザイン学会ウェブサイト</p>	
<p>②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p>※取り組みの概要を記入。</p>	
<p>研究・社会貢献活動の活性化には時間の確保が必要条件との考えから、各行事の担当者を段階的に削減していく方針である。現状としては、研究活動のための学外活動は積極的に奨励しているが、各行事の担当者が不足するケースもあり、大学院の運営業務と研究活動・社会貢献活動との両立は課題である。学事の運営に支障のない範囲で、各種委員会の代理出席等により、各教員の活発な活動が可能な環境づくりに努めている。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p>2020年度は個別相談形式からグループ相談形式への変更により進学相談会担当者を1名削減した。上述の通り、削減による相談会の質の低下は見られず、むしろ向上したと認識している。</p>	
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・特になし
③組織編制やFD等に関して、COVID-19 への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。
※取り組みの概要を記入 教授会にてオンラインでの授業実施に関する情報交換を行っている。
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入
・特になし

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・高度な専門性、豊富な研究業績を持つ研究者がバランスのとれた年齢構成のもと、カリキュラムに適合的な教員組織を編成している。FD活動、研究活動においては、特に法政大学キャリアデザイン学会の取り組みが大きな意義を有している。また、日常の業務においても教員の資質の向上を可能とする環境の構築に努めている。	

(3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既の実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

キャリアデザイン学研究科は、いずれの項目においても、満足すべき水準の取り組みが行なわれている。法政大学キャリアデザイン学会の開催を通じて相互の自己研鑽に努めるなど、FD活動が適切に実施されている点、授業に関するオンライン上の情報交換を行なうなど、コロナ禍に起因するさまざまな制約のもと有効な対策が講じられている点、高度な専門性を有する教員とバランスのとれた年齢構成により、カリキュラムに見合った教員組織が編成されている点などが高く評価できる。一方、大学院の運營業務と研究活動・社会貢献活動との両立が課題として挙げられており、限られた人的資源を有効に活用しつつ両者の活性化を促すための環境づくりが今後とも求められる。

3 その他の基準の COVID-19 への対応

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 その他、学生支援や学生の学習環境や教員の教育環境整備、社会貢献における COVID-19 対応・対策を行っているか。
①その他、研究科として学生支援や学生の学習環境や教員の教育研究の環境整備、社会貢献等における COVID-19 への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。
※取り組みの概要を記入 特になし
【根拠資料】
・特になし

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【この基準の大学評価】

キャリアデザイン学研究科では、院生交流用オンラインプラットフォームの構築やオンライン交流会、春学期授業を補完するような授業形式の会を実施していること、基本的には交流会の実施等は院生の自主性に任せており、交流状況はヒアリングで把握していることがインタビューにおいて確認できた。

III 2020 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関する事】	
1	中期目標	プログラム制による体系的なカリキュラムを通じた専門性深化の継続と浸透。	
	年度目標	オンライン授業では対面と変わらぬ授業の質と教育効果の確保を目指す。カリキュラム全体（基礎・共通科目、プログラム科目、演習）の運用状況の把握、問題の発見と解決に加え、eLCore を活用した研究倫理教育を徹底する。	
	達成指標	今年度も引き続き、アンケート等によりカリキュラムの運用状況の把握、問題の発見を行う。オンライン授業に関しては適宜、院生と情報交換・状況把握を行う。研究倫理教育に関しては、次年度に演習を履修する修士1年生 eLCore 修了率 100%を目標とする。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	授業は、ZOOM によるリアルタイム配信を中心として行い、履修者の状況に応じて文章配付形式も一部で採用した。授業は形式は異なれど質は例年と変えないことを原則に実施した。春学期修了時には執行部と院生が授業や学習に関して話し合う機会を設け、授業実施に関するフィードバックを得た。研究倫理教育は 100%の受講率を達成した。
		改善策	授業に関する苦情や不満はほとんど出しておらず満足度は高いものと思われるが、修士1年生に対する授業の教育効果は現段階では評価困難であるため、来年度の修士論文の研究指導を通じて今年度授業の教育効果を引き続き検証し、問題の発見と解決に努める必要がある。
		質保証委員会による点検・評価	
所見		オンライン授業を実施しつつも、適切なフィードバックを得るための工夫等を通じて、授業と教育の質を維持するよう努めたこと、および研究倫理教育の受講率 100%という当初の目標を実現したことは評価できる。	
改善のための提言	全面的に従来とは異なる形式の教育実施・運営の対象となった修士1年生の学習成果、教育効果の把握・検証は、引き続き行っていくべきであろう。また、現行の教育課程を運用しはじめてからの時間的経過にも鑑み、個別の授業科目ではなく、教育課程全体の効果等を点検していく方策や場の設定についても検討を進めていくべきなのではないか。		
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関する事】	
2	中期目標	研究科開設から5年という節目において、より一層の教育研究指導方法の向上を図る。	
	年度目標	前年度に引き続き、シラバス通りの授業実施の徹底と、マンツーマンでの修士論文指導体制を徹底する。および年3回の修論発表会を実施し、対処すべき課題が生じた際には迅速かつ適切に対応する。	
	達成指標	大学院生の研究計画に基づいて修士論文指導教員を適切に配置し、ミスマッチのないマンツーマン指導体制を確立する。授業上で対処すべき課題は授業アンケート等で把握し、適宜、研究科内での情報共有と対応を行う。発表会の対面形式での開催が困難な場合はオンラインでの発表とフィードバックを行う	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
	自己評価	A	
	理由	年度初回の発表会は通信環境の懸念からメールでの実施としたが、2回目と3回目はリアルタイム配信形式により実施し、例年と変わらぬ質の発表・議論を行えた。 入学者数は安定しているものの、修士論文指導の履修者の年度ごとの変動が大きく、来年度の修士論文指導はマンツーマンではなく教員1名に対して2名の院生を配置するケースが3件生じた。	
	改善策	一部の教員が複数名を指導する体制となり業務負担の過剰化が懸念されたが、中間発表会や修士論文の提出に関して当該事情を理由とした遅延は見られず、新型コロナによる業務多忙を理由とした提出延期3件のみにとどめることができた。しかし、冬期休業中も修士論文指導に追われる教員が一部に見られるとともに、学部業務の負担も増しており、授業の実施方法さらにはカリキュラムの変更にまで視野に入れて業務負担を削減するための対策を検討する必要がある。	
	質保証委員会による点検・評価		
	所見	修士2年生に対する初回の修士論文発表会がメール開催になったことの影響については、慎重な検討が必要だったであろう。逆に言えば、修士2年生に対する2回めの発表会、修士1年生の発表会をリアルタイム・オンラインで、可能なかぎり例年に近い形で実施できたことは評価される。修士論文の提出延期が3件に及んだことをどう評価し、提出された論文の質が全体としてどうであったのかの検討には、今後取り組んでいく必要があるのではないかと。	
改善のための提言	論文指導の教員負担の問題については、今後ともマンツーマンの指導という形式を大前提に考えていくのか、それとも、仮に教員1名対指導院生複数名という形になったとしても、それでも過度な負担がなく指導が可能になるような全体の体制の構築（例えば、修了要件の見直し等を含めて）を考えていくのか、抜本的な検討を進めていく場の設定が求められるのではないかと。		
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
3	中期目標	修了生の学会発表、学会誌への投稿等の継続的促進を図る。 研究科修了生のレベルの維持・向上を図り、高度職業人養成機関としての本研究科の社会的地位の継続的な向上を図る。	
	年度目標	大学院生の学習状況を把握し、十分な学習成果を出せるよう支援する。また、修了生のうち優れた研究を行った者については学会での研究発表、学会誌への論文投稿等の促進を継続するとともに、修了生の研究成果の実務界への還元も推奨、促進する。	
	達成指標	年3回の修士論文検討会等において、研究の進捗状況の把握と助言を行い、研究水準を理由とする修了試験不合格者の発生を防ぐ。また、学会発表、論文発表その他研究成果の社会還元の実績に関する情報を研究科内で共有し、Webサイト、シンポジウム等で広く公表する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
理由		オンライン形式で修士論文検討会を開催した。また、オンラインシンポジウムでは、修士修了生2名が大学院での学びとその研究成果を報告した。日本キャリアデザイン学会をはじめとした学会で、卒業生が投稿した論文が採択され、公開された。	
改善策		2020年度は大会開催が中止になった学会もあり、大会報告を見送った修了生もいる。2021年度もオンライン開催が予定されているが、修了生が報告準備を教え合う体制をつくる必	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

			<p>要がある。また、現役院生も積極的に学会大会や研究会に参加し、研究の知見を深めるように促す必要がある。</p>	
		<p>質保証委員会による点検・評価</p>		
	所見	<p>大学院シンポジウムにおいて、オンライン開催であったとはいえ、例年どおり修了生による研究成果の報告がなされたこと、学会発表については、各学会の大会開催中止等の影響は受けたものの、修了生による学会誌への投稿が採択される傾向が続いていることは高く評価できる。</p>		
	改善のための提言	<p>修了生による学会発表や学会誌への投稿等は進んでおり、成果をあげているが、「高度職業人養成機関」としての本研究科の役割に鑑み、「修了生の研究成果の実務界への還元」についても、その成果を把握する方法等についての検討と実施に向けた取り組みが必要ではないか。</p>		
No	評価基準	<p>学生の受け入れ</p>		
4	中期目標	<p>学生募集はホームページ、パンフレット、入学相談会、大学院シンポジウム、研究計画書説明会など、あらゆる機会を通して入学志願者に詳しい入試情報を提供してきており、このような取り組みをいっそう充実させる。</p>		
	年度目標	<p>定員の充足率は過去5年間平均で90%台であり、2018年は85%であった。数値上は100%を目標とするが、従来より、合格基準点を下げることなく質を厳しく担保しつつも定員充足率を適正に管理してきており、こうした充足率管理を継続していく。</p>		
	達成指標	<p>引き続き100%の定員充足率を目標とするが、合格基準点を安易に下げることなく、書類選考、筆記試験、口述試験による研究遂行能力の評価に基づいて厳格に入学者を選抜し、質の高い教育の確保・徹底に努める。</p>		
	年度末報告	<p>教授会執行部による点検・評価</p>		
		自己評価	<p>A</p>	
		理由	<p>オンラインでの研究計画書説明会、進学相談会やシンポジウムの実施、同窓会ネットワークを通じた広報が功を奏し、今年度は定員の約2.5倍という例年を上回る応募があった。新型コロナ対応のため書類選考と面接試験のみでの選抜としたため、面接試験で精度の高い選抜を行うことを目的として、必須の質問事項を事前に定めて教員間で共有した。</p>	
		改善策	<p>例年に劣らぬ質の院生を選抜するため面接試験の精度向上と厳格な選抜を行った結果、として合格者は定員の80%にとどまった。質の高い教育を確保するためにはやむを得ない充足率と考えられるが、書類選考では応募者の提出書類の質の低さが目立った。次年度も引き続き研究計画書説明会を実施するが、説明内容の点検と必要に応じた見直しを行って志願者の研究準備を支援していく。</p>	
		<p>質保証委員会による点検・評価</p>		
		所見	<p>例年とは異なる形で説明会・相談回答会を実施せざるを得なかったが、結果的に応募者数が例年以上であったこと、また、選抜方法の変更をふまえ、従来以上に選考の手続きを共有したことは評価できる。2021年度入学者の定員充足率が低下したことについては、原因の究明と今後の対策についての検討の必要性があらう。</p>	
	改善のための提言	<p>充足率がゆるやかに低下傾向にあること、さらには今年度は応募者数が増加したものの充足率が低下していることから、応募書類に求める要件等の情報提供を検討してもよいのではないか。</p>		
No	評価基準	<p>教員・教員組織</p>		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

5	中期目標	当研究科では 2011 年に大学院担当教員の基準を明確化し規定を整備している。規定に基づき適切に教員募集・任免・昇格を行うことを継続していく。		
	年度目標	求人内容について学部とも調整のうえ、定年退職者の補充のため 1 名の新規採用を行う。本年度は教員組織の質的向上を目標とし、各教員の、法政大学キャリアデザイン学会等における相互研鑽と、各種学会への参加、論文発表を通じた自己研鑽と成果発現に努める。		
	達成指標	春学期中または年内に新任教員 1 名を採用する。また、教員配置に関する課題を継続的にモニタリングし、必要に応じて対処を行う。教員の研究成果に関しては、質の確保という点から単純な数値目標を追求することは適切でないが、本研究科のカリキュラムに関連する幅広い観点からの研究を奨励し、状況のモニタリングとして、各教員の研究実績に関する情報を共有する。		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
		理由	社会教育が専門の笹川孝一教授が、2020 年度をもって定年退職するので、公募・採用活動を行い、新任教員（久井英輔氏）の採用を決定した。年 4 回の法政大学キャリアデザイン学会研究会、教員による共同研究プロジェクトの研究会を 2 回開催した。研究成果の共有が行われた。	
		改善策	学内の研究会は、学際的な研究共有の場になっているが、外部研究者の報告が多いこと、研究の共有にとどまり、新たな学際研究まで到達しているものは少ない。学際的な議論によって教員それぞれの研究を発展させていく必要がある。	
質保証委員会による点検・評価				
所見	笹川孝一教授の後任を採用できたこと、ならびにコロナ禍の中でも各種研究会（法政大学キャリアデザイン学会研究会・共同研究プロジェクトの研究会）を継続的に開催できたことは評価できる。			
改善のための提言	所属する教員の専門の多様性を学際的な研究へと発展させるべく、各教員の研究テーマならびに実績の積極的な情報共有を検討してもよいのではないかと。			
No	評価基準	学生支援		
6	中期目標	社会人院生が実務と研究のバランスをとっていく上でのアドバイスや、修士レベルの論文を書くのが初めての院生に対する、学術的調査研究の取り組み方・心構えの指導など、全教員がいつそうきめ細やかな対応を行っていく。		
	年度目標	新型コロナ対応に伴う学事日程・行事運営方法の変更等に関しては可及的速やかに院生に情報提供を行う。また、対面の交流が持てない状況下で学年を越えた交流機会を設けるため、院生用の Slack を立ち上げ、教員の緩衝なしに自由に情報交換ができる非公式な場を構築する。		
	達成指標	対面でのコミュニケーションが取れないがゆえに生じうる連絡の不備や学習上の不便による問題を未然に防ぎ、やむを得ず問題が生じた場合は迅速に解決に努める。例年通りの院生支援を提供できることを目指し、非対面であるがゆえに生じた問題に起因するトラブル・退学の発生を防ぐ。		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
理由	大学院生の学年別に連絡係や会計担当などの幹事役を決め、公式行事のみならず、履修方法や学習準備方法に関する連絡を随時行った。また、院生同士の交流の促進や学習上の不安を解消するため、院生交流用オンラインプラットフォームの構築や、授業とは別に教員			

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

			と院生とのオンライン相談会も実施した。これらの施策により、今年度は退学者はおらず、授業関連のトラブルも発生していない。	
	改善策		院生用交流プラットフォームは執行部からの依頼により院生が構築し、非公式に気楽に交流できる場として教員は閲覧不可として設定している。しかし、当初はプラットフォーム上での交流が不活発であるとの報告を院生から受けたため、一部の院生に教員から依頼をして交流を活発化するための情報発信などを行ってもらったのが実態である。今後も幹事役等から院生同士の交流の状況を把握するとともに、必要に応じて授業以外での教員との交流イベントの企画などを検討していく。	
		質保証委員会による点検・評価		
	所見		例年以上にきめ細やかな連絡を行い、かつこれまで行っていなかったオンラインでの相談会を実施する等、状況に応じた臨機応変な対応をとったことは評価できる。ただし、設定されたプラットフォーム上での交流が当初はそれほど活発ではなかったこと等も含め、さらなる創意工夫も求められよう。	
	改善のための提言		オンラインでの交流には一定の利便性が認められることは事実だが、長期化することで交流が不活性化することも懸念されるので、継続的な確認が必要である。	
No	評価基準	社会連携・社会貢献		
7	中期目標	キャリアデザイン学は理論に裏付けられた実学であり、高度な専門職を目指す院生の学習ニーズに応えるのと同時に、社会の人材ニーズにも対応していくことに力を置く。		
	年度目標	大学院修了者および教員の研究成果を学会、学術雑誌にて発信し、キャリアデザイン学の知見を広く社会に提供する。また、大学院修了者による、研究成果の実践への還元も推奨していく。		
	達成指標	大学院修了者および教員により、研究成果を学会や学術雑誌で発表するのみならず、研究実績および実践への応用実績をウェブサイトやシンポジウム等で広報し、研究成果の社会還元・普及を促進する。		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
		理由	日本キャリアデザイン研究第16号でも、修了生による投稿研究ノート3本、教員による論文2本、資料2本、実践報告1本が掲載された。また、修了生と教員の共著、修了生の単著も刊行され、それぞれビジネスと教育の現場で活用される成果となっている。	
		改善策	修了生の同窓会組織は運営されているが、各分野で活躍する修了生の活動はすべて把握しているわけではない。日本キャリアデザイン学会のような学会は把握しやすいが、看護の分野などでも活躍している修了生は多いので、研究成果の共有が必要である。	
質保証委員会による点検・評価				
所見	査読つき学会誌への教員ならびに修了生の投稿・掲載が一定水準以上に保たれている事、さらには図書としての出版もなされていることが評価できる。			
改善のための提言	本研究科の修了生が活躍するフィールドは幅広いことから、研究成果を研究科として集約する仕組みの構築を検討してもよいのではないか。			
<p><b>【重点目標】</b></p> <p>今年度は春学期に対面式授業が行えず5月の段階でも収束の状況が見えない中で、オンラインで授業を行うためのツールを駆使し、例年の対面授業と遜色のない質での授業の実施と教育効果の実現を目標とする。目標達成の基準として、授業のオンライン化など新型コロナ対応に起因する院生の学習環境の悪化や学習意欲の低下を防止して予定通りの修了につなげるとともに、同対応に伴う退学者の発生を防止する。</p>				

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【目標を達成するための施策等】

授業に関しては、研究科として一律の実施方法を定めず、科目の性質や履修者の受講環境（勤務の状況、インターネット接続環境等）に配慮し、授業ごとに最適な方法で実施する。実施方法とそれに伴う課題や参考になる点などは教授会等の場において情報を共有して授業の品質の維持・向上に活用する。また、院生同士のサポートも例年通りに近い状況をつくるため、院生専用のSlackを立ち上げて情報交換や交流、サポートの場を設け、学習上の不便や、自宅学習に伴う不安感や孤立感を防止する。

【年度目標達成状況総括】

今年度は授業・入試の双方において、オンラインでの実施が大半となった。オンラインでの授業実施に当たっては、大学院生の希望を踏まえて実施方法を検討し、実施内容に関しては、例年おこなっている内容をオンラインで再現することを基本として行った。授業実施方法に関してはグループウェアでの情報交換や教授会での意見交換によってノウハウや課題を共有した。大学院生同士および教員と院生間との交流はオンラインでは十分に例年通りの状況を再現できなかったが、教員によるオンラインでの非公式行事の実施や、執行部と院生幹事との連絡を密に行うことにより、特段の苦情や問題は発生しなかった。以上より、今年度の目標はおおた達成できたと考える。ただし、授業のオンライン化により通学時間が短縮されて社会人院生の出席率が上昇したため、例年よりも円滑に教育が行えたという点も認識している。対面授業中心の状況に戻った際にも、社会人が仕事と学業との両立が円滑に行えるような環境の整備を、年々増加しつつある教員の業務負担の削減策と合わせて今後検討していく必要がある。

【2020年度目標の達成状況に関する大学評価】

キャリアデザイン研究科では、いずれの評価基準についても自己評価が「A」となっており、2020年度目標がおおむね達成されたことがうかがわれる。とくに、コロナ禍という未曾有の事態にもかかわらず授業の質を低下させないためのさまざまな取り組みや、授業実施をめぐる課題を教員間で共有するなどの試みが実行に移されたことは高く評価できる。今後は、「質保証委員会による点検・評価」にも記されているように、教育課程全体の効果を検証していくための仕組みづくりや、教員の業務負担の削減にむけた組織的な取り組み、マンツーマン指導の徹底という原則の根本的な見直しを含めた検討作業、修了生の研究成果の実務界への還元にかかわる取り組みの進展、定員充足率の漸減に対する対策の検討に期待したい。

IV 2021年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	プログラム制による体系的なカリキュラムを通じた専門性深化の継続と浸透。
	年度目標	オンライン授業では対面と変わらぬ授業の質と教育効果の確保を目指す。カリキュラム全体（基礎・共通科目、プログラム科目、演習）の運用状況の把握、問題の発見と解決に加え、eLCoreを活用した研究倫理教育を徹底する。
	達成指標	今年度も引き続き、アンケート等によりカリキュラムの運用状況の把握、問題の発見を行う。オンライン授業に関しては適宜、院生と情報交換・状況把握を行う。研究倫理教育に関しては、次年度に演習を履修する修士1年生 eLCore 修了率 100%を目標とする。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	研究科開設から5年という節目において、より一層の教育研究指導方法の向上を図る。
	年度目標	前年度に引き続き、シラバス通りの授業実施の徹底と、マンツーマンでの修士論文指導体制を原則として進める。および年3回の修論発表会を実施し、対処すべき課題が生じた際には迅速かつ適切に対応する。
	達成指標	大学院生の研究計画に基づいて修士論文指導教員を適切に配置し、ミスマッチのない指導体制を確立する。授業上で対処すべき課題は授業アンケート等で把握し、適宜、研究科内

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		での情報共有と対応を行う。発表会の対面形式での開催が困難な場合はオンラインでの発表とフィードバックを行う
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	修了生の学会発表、学会誌への投稿等の継続的促進を図る。 研究科修了生のレベルの維持・向上を図り、高度職業人養成機関としての本研究科の社会的地位の継続的な向上を図る。
	年度目標	大学院生の学習状況を把握し、十分な学習成果を出せるよう支援する。また、修了生のうち優れた研究を行った者については学会での研究発表、学会誌への論文投稿等の促進を継続するとともに、修了生の研究成果の実務界への還元も推奨、促進する。
	達成指標	年3回の修士論文検討会等において、研究の進捗状況の把握と助言を行い、研究水準を理由とする修了試験不合格者の発生を防ぐ。また、学会発表、論文発表その他研究成果の社会還元の実績に関する情報を研究科内で共有し、Webサイト、シンポジウム等で広く公表する。
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	学生募集はホームページ、パンフレット、入学相談会、大学院シンポジウム、研究計画書説明会など、あらゆる機会を通して入学志願者に詳しい入試情報を提供してきており、このような取り組みをいっそう充実させる。
	年度目標	昨年度は筆記試験を行わなかったため例年よりも保守的な選抜を行ったことが影響し、定員充足率は80%にとどまった。数値上は100%を目標とするが、従来より、合格基準点を下げることなく質を厳しく担保しつつも定員充足率を適正に管理してきており、こうした充足率管理を継続していく。
	達成指標	今年度は筆記試験を従来通りに実施し、過度に保守的にならずに選抜を行い100%の定員充足率を目標とする。ただし、合格基準点を安易に下げることなく、書類選考、筆記試験、口述試験による研究遂行能力の評価に基づいて厳格に入学者を選抜し、質の高い教育の確保・徹底に努める。 新型コロナウイルス感染状況の悪化により筆記試験が行えなくなった場合は、筆記試験なしで入学した今年度の新入生の学力、学習態度の状況を勘案して代替的な選抜方法を検討する。
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	当研究科では2011年に大学院担当教員の基準を明確化し規定を整備している。規定に基づき適切に教員募集・任免・昇格を行うことを継続していく。
	年度目標	今年度は1名の定年退職者補充を予定している。今年度は、新たに着任した新任教員の授業その他の業務のサポートを必要に応じて的確に行う。併せて、教員組織の質的向上を目標とし、各教員の、法政大学キャリアデザイン学会等における相互研鑽と、各種学会への参加、論文発表を通じた自己研鑽と成果発現に努める。
	達成指標	年度内に新任教員1名を採用する。また、教員配置に関する課題を継続的にモニタリングし、必要に応じて対処を行う。教員の研究成果に関しては、質の確保という点から単純な数値目標を追求することは適切でないが、本研究科のカリキュラムに関連する幅広い観点からの研究を奨励し、状況のモニタリングとして、各教員の研究実績に関する情報を共有する。
No	評価基準	学生支援

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

6	中期目標	社会人院生が実務と研究のバランスをとっていく上でのアドバイスや、修士レベルの論文を書くのが初めての院生に対する、学術的調査研究の取り組み方・心構えの指導など、全教員がいつそうきめ細やかな対応を行っていく。
	年度目標	新型コロナ対応に伴う学事日程・行事運営方法の変更等に関しては可及的速やかに院生に情報提供を行う。従来は院生から代表者を選出し日常的な連絡事項の窓口としてきたが、対面の交流機会が少ないゆえに連絡に支障が出るケースが昨年度見られたため、今年度は執行部から院生全員に直接連絡する方法を主体とする。
	達成指標	対面でのコミュニケーションが取れないがゆえに生じうる連絡の不備や学習上の不便による問題を未然に防ぎ、やむを得ず問題が生じた場合は迅速に解決に努める。例年通りの院生支援を提供できることを目指し、非対面であるがゆえに生じた問題に起因するトラブル・退学の発生を防ぐ。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	キャリアデザイン学は理論に裏付けられた実学であり、高度な専門職を目指す院生の学習ニーズに応えるのと同時に、社会の人材ニーズにも対応していくことに力点を置く。
	年度目標	大学院修了者および教員の研究成果を学会、学術雑誌にて発信し、キャリアデザイン学の知見を広く社会に提供する。また、大学院修了者による、研究成果の実践への還元も推奨していく。
	達成指標	大学院修了者および教員により、研究成果を学会や学術雑誌で発表するのみならず、研究実績および実践への応用実績をウェブサイトやシンポジウム等で広報し、研究成果の社会還元・普及を促進する。

**【重点目標】**

今年度も5月の段階で対面式授業が行えず収束の見通しが不透明である中で、オンライン授業のツールを駆使し、例年の対面授業と遜色のない質での授業の実施と教育効果の実現を目標とする。目標達成の基準として、授業のオンライン化など新型コロナ対応に起因する院生の学習環境の悪化や学習意欲の低下を防止して予定通りの修了につなげるとともに、同対応に伴う退学者の発生を防止する。

**【目標を達成するための施策等】**

授業に関しては、研究科として一律の実施方法を定めず、科目の性質や履修者の受講環境（勤務の状況、インターネット接続環境等）に配慮し、授業ごとに最適な方法で実施する。実施方法とそれに伴う課題や参考になる点などは教授会等の場において情報を共有して授業の品質の維持・向上に活用する。また、登校機会が少ないがゆえに院生研究室の管理と備品の管理が不十分になり研究環境が悪化する恐れがあるため、OA機器・消耗品等の備品の在庫や設備のメンテナンスの状況を把握し、必要な備品の補充・設備の保全・更新を行う。

**【2021年度中期目標・年度目標に関する大学評価】**

キャリアデザイン研究科における「教員・教員組織」の年度目標には、「新たに着任した新任教員の授業その他の業務のサポートを必要に応じて的確に行う」という新たな目標が加えられており、適切かつ具体的な試みとして評価できる。また、「教員・教員組織」の年度目標には、昨年度の反省を踏まえた改善策が盛り込まれており、この点も評価に値する。一方、それ以外の評価基準については、年度目標、達成指標いずれも昨年度とほぼ同じ文言（あるいはほぼ同じ内容）となっている。前年度の「質保証委員会による点検・評価」に記されている「改善のための提言」を踏まえつつ、将来にむけた研究科としての展望を示しうる発展性のある目標設定を行なうべきだろう。

**【大学評価総評】**

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

キャリアデザイン学研究科は、2020年度以降、コロナウイルス感染拡大という事態を受けて、原則としてオンラインでの授業が展開されているものの、従来の教育水準を維持するため、オンライン授業の実施に関する有益な情報を教員間で共有するなど、さまざまな取り組みが行なわれていることは評価に値する。また、入学直後のオリエンテーションにおける充実した履修指導や、厳正な審査にもとづく成績評価、学位基準の周知徹底、学位授与にかかわる責任を教授会全体が負う仕組みの確立、年3回実施されている修士論文構想発表会・中間発表会を通じた研究水準の維持および向上のための試みなど、充実した教育体制が整えられていることは特筆に値する。さらに、現役の大学院生のみならず、研究科修了生の研究レベルの向上をも視野に入れた息の長い指導体制が整えられており、大学院シンポジウムにおいて、修了生による研究成果の報告がなされたり、修了生による学会誌への投稿が採択されたりするなど、具体的な成果がみられることも高く評価できる。

一方検討課題として挙げられていた、「社会人を主体とした大学院としての役割を踏まえ、実践的応用性を重視した論文も評価の対象とする」点は、その着実な実行を視野に入れた検討作業に期待したい。大学院の運営業務と研究活動・社会貢献活動との両立については、限られた人的資源を有効に活用しつつ両者の活性化を促すための環境づくりが今後とも求められる。質保証委員会による改善の提言で指摘されている、教育課程全体の効果を検証していくための仕組みづくりや、教員の業務負担の削減にむけた組織的な取り組み、マンツーマン指導の徹底という原則の根本的な見直しを含めた検討作業、修了生の研究成果の実務界への還元にかかわる取り組みの進展、定員充足率の漸減に対する対策の検討に期待したい。なお、2021年度目標、達成指標いずれも昨年度とほぼ同じ文言（あるいはほぼ同じ内容）となっているものがある。前年度の「質保証委員会による点検・評価」に記されている「改善のための提言」を踏まえつつ、将来にむけた研究科としての展望を示しうる発展性のある目標設定を行なうべきだろう。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。